

協働イベントをやってみよう パート2

実践！「協働イベント」の企画戦略会合

2011年度 第3回 2011年12月16日(金)

講師: 森村 ゆき 一般社団法人PARACUP 代表理事

【学習目標】

ワークショップを通じて、「協働イベント」の企画作成方法を学ぶ。

本研修では、企画のプロセスのポイントごとに講師から説明を受け、参加者が2つの企画案を作成した。



企画のプロセスの流れとポイント

①解決したい問題とイベントの目的は何か。

イベントはただ「暇だからやる」のではなく、何か目的があってやることなので、資金や人材の不足など、イベントを通じて解決したい問題を把握する。問題を全部解決することはできないが、協働することによって、団体それぞれの強みや弱みを出して学び合うことができる。

イベントの目的を設定する。資金調達为目的である場合、募金額の達成目標によってイベントの規模が異なるため、「いくら集めたいのか、どのくらい広報したいのか」など数値目標も考えておく。募金額の配分金額を均等割りするのは難しい場合もあるし、均等割りにしかならない場合もある。各団体がどのくらいのお金を得たいのか最初に話し合っておくとよい。

イベントで物を販売できるなど、各団体のモチベーションになる部分はすり合わせをしておいた方がよい。

②どんな人に参加してもらいたいのか。参加者からどのような感想をもらいたいのか。

想定する来場者を考える際、イベント終了後に参加者からどのような感想をもらいたいのかを考えてみる。例えば「国際協力に興味を持った」という感想がよいか、「支援したいと考えた」がよいか。資金調達が目的のイベントであるため、参加者は「お金を出せる人」を想定する。

③何をするイベントか。

イベントで行う内容を考える。野外イベントか、音楽コンサートか、フェアトレード商品の販売か。協働イベントの利点も考慮に入れ、どんなことができそうかを絞り込む。

④どのようにお金を集めるか。協賛企業が参加するメリットは。

先に考えた目標募金額(収入額)を考慮に入れて、[1人当たり参加費(入場料等)×参加人数-コスト]に当てはめ、金額の集め方も合わせ、具体的に考える。例えばイベント会場で1人2,000円使ってもらいたいならば、2,000円のクーポンを販売するなど。協賛金を募る場合、その企業が協働イベントに参加するメリットが何かを考える。この時点では皮算用でもよい。

⑤予算を立てる。

収入、経費とも具体的に考える。「イベントの参加費をいくらにするか」、「人数は何人か」を考え、これにより参加費収入を算出。支出については、必要な内容をすべて洗い出し、算出をする。収入-支出が寄付にまわせるので、足りなければ協賛企業を集める検討などを行う。

⑥業務・役割を考える。

必要業務と役割をあらかじめ想定し、参加団体と協議する。

⑦スケジュールを考える

開催本番はいつがよいかを考え、準備期間のスケジュールを考える。



参加者同士が活発に話し合う研修となった

⑧イベント概要を作成する

どんなイベントであるのかを人に説明したり、内部で検討するためにイベント概要を作成する。A4サイズ1枚程度にまとめるのがよい。イベント名は、内容のイメージが湧き、興味を引くようなものがよい。イベント内容には、このイベントがどのようなイベントなのかや、イベントの目的なども盛り込んでおくがよい。例えば、「このイベントはNPO法人〇〇が主催する、子どもたちをサポートする寄付を集めることを目的とした、チャリティ夏祭りです。夏祭りといえば…」と続けていくなど。開催日、開催場所、募集人数、参加費、申込み方法、締切日など、参加者がイベントに申し込むときに知りたい内容をきちんと決めて盛り込む。内部向けになるが、収益目標、準備のスケジュールなども決めておくがよい。

参加者が作成したイベント案

【協働イベントA案】（注：フォローアップ会合での議論内容含む）

イベント名	フィリピン映像祭(仮)			
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ NGO映像コンテスト。映像でフィリピンを紹介する。コンテスト参加者は参加費を支払うが、映像制作レクチャーを無料で受けられる。上位入賞団体には賞金を授与。結果的に参加団体は映像での広報資料ができるので、各団体に活用できるようにする。 ・ 応募作品はiphoneなどで簡単に作成できるものを想定。 ・ 主催は日比NGOネットワークだが、どの団体でも参加できる。東京以外の団体も参加できることが利点の一つ。 ・ 映像制作専門学校、企業などとタイアップする。 ・ 受賞発表時はフィリピンで人気の映画の上映もする。 ・ 審査員として、フィリピンの関連のある映画監督など著名人を招く。 			
ターゲット	シニア、富裕層(寄付者や会員として)、若者(ボランティアとして)			
経費概算	項目	単価	数量	小計
	(収入)			
	スポンサー費(目標)	¥800,000		¥800,000
	コンテスト参加費	¥30,000	20人	¥600,000
	当日入場料	¥1,000	1,000人	¥1,000,000
	収入計			¥2,400,000
	(支出)			
	講師・審査謝礼	¥50,000	5人	¥250,000
	レクチャー会場費			協力を得る
	広報費(ウェブ、チラシ等)	¥100,000		¥100,000
	諸経費(交通費、通信費等)	¥100,000		¥100,000
	本番会場費	¥100,000	1日	¥100,000
	賞金	¥250,000		¥250,000
	支出計			¥800,000
	合計収益			¥1,600,000
収益目標	160万円÷4団体(職員の人件費を考慮。各団体35～40万円程度を配分できることが目標)			
実施時期	2012年12月ごろ(目標)			
スケジュール	準備期間	2012年4月～5月	告知・レクチャー実施時期	2012年6月～9月
	作品受付期間	2012年10月～11月		

【協働イベントB案】

イベント名	フィリピン文化祭(仮)			
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ フィリピンの文化(料理・音楽・踊り・演劇・映画等)を披露し、地域の人に参加してもらおうイベント。開発や国際協力に興味のある人でなくとも、アジアの文化に興味のある人が参加でき、楽しいイベントにする。会場でのブース出展や発表を通じて、フィリピンの現状や、日本のNGO団体のことを知ってもらおう。 ・ 会場は大学や教会を使用する。在日フィリピン人の参加を促す。 ・ 主催は日比NGOネットワーク ・ 参加者数は、初年度は1,300人程度と少ないが、5年後には5,000人の参加を目指す。 			
ターゲット	若者、芸術に興味のある人			
経費概算	項目	単価	数量	小計
	(収入)			
	入場料(一般)	¥1,500	1,000人	¥1,500,000
	(学生)	¥1,000	300人	¥300,000
	出展料	¥10,000	20団体	¥200,000
	収入計			¥4,000,000
	(支出)			
	(時間に限りがあり、検討できず)			
収益目標	150万円～200万円×団体(ARI1人の学費=150万円)			
実施時期	2012年10月ごろ(目標)			
スケジュール	(スケジュールは時間に限りがあり、検討できず)			